

2011 年 F3A 統一見解

今審査員講習会講師、成家儀一氏がジャッジとして参加の 2010 年アジア・オセアニア大会開催に際し行われたジャッジ講習会においての審査に対する新しい見解、また昨年より国際大会で採用されている、その他の見解を下記に記し、2011 年日本模型航空連盟主催の F3A 大会においてもこれを統一見解として採用する。

新 F3A チェアーマン マイケル氏（ドイツ）のジャッジ講習会内容。

- (1) 審査の原則は、再び正確性 50%、優雅さ 25%、ポジショニング 12.5%、サイズ 12.5% の比率となった。
- (2) BOX から演技が出た時は、その%に応じて減点だが、そればかりを観察するのでは無い。絶対出ていると思われる時はマイナスを多く付ける。基本は機体の視認性である。
- (3) 採点は満点の 10 点から引いて行くだけです。プラスしてはいけません。
- (4) ターン演技は高度調整の演技であるとの事。ハーフ（リバース）キューバン、ハンブティ・バンブ、ストール・ターン等。また奥行と高度調整の演技もある。（トップ・ハット、ハンブティバン等）
- (5) ストール・ターン中は風に流されても減点無し。（スピンと）同様。
- (6) スナップ・ロールのオフセットは多少の場合減点しない。多い場合減点。またスナップの入りに UP、DOWN（ブレーク）が見えないと減点。
- (7) ロールの切り返してで水平飛行があったらマイナス 1 点。直ちに切り返す事。
- (8) オン・コーナーは小さくても減点しない事。選手の飛行方法だから。
- (9) P11 のダブル・インメルマンで底辺のロールがダブル・インメルマンの円の外まで行くのは減点。
- (10) F11（ファイナル）演技は演技によってロール・レートは変化します。演技の大きさも変化します。
- (11) F11 スナップ・ロール付きロールは直ちに反対方向へ、またセンターはスナップ・ロール、ロール演技全体の中心。

昨年の F3A 国際大会から採用されている、ルールに対する見解。

- (1) 推力発生装置の方向を変化させ操縦する装置を使用しての大会出場は不可。
- (2) エンジン、エレクトリック・モーター等を問わず、推進装置は操縦電波が途切れた時、完全停止またはアイドリングになるよう、フェール・セーフを設定しなければならない。
- (3) エレクトリック・モーターを使用している場合の動力用バッテリー接続は、タイム・キーパーが飛行時間開始を告げた後に接続すること。違反の場合は失格の対象となる。また着陸後は速やかに動力用バッテリーを外すこと。
- (4) 動力用バッテリーの電圧チェックは、機体に積んだ状態で、レディーボックス内で受ける。
- (5) 受信機側から送信機に向けデータを送信（双方向通信）することが許されるのは、安全に有効と認められるデータに限る。（例；受信機電圧、受信電波強度）